

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
---------------------	------

分野別の目標	1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出
--------	--------------------------

1 現状と課題

- ① 既存の観光資源の周知拡大や発掘・創出とともに、その魅力の向上を図ることが求められています。
- ② 本区の資源の魅力をより高める観光コースづくりが求められています。
- ③ 本区の特長である大学等の教育機関と美術館・博物館などとの連携を強化していくことが求められています。
- ④ 歴史的・文化的な資源以外にも、本区ならではの「食べる」、「買う」、「体験する」、「交流する」などの魅力も高めていくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

基本的な方向・事業実績	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ	24
(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり	24
(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり	24
(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築	25

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・ 区の代表行事である各種祭りの実施・助成などを通じて、観光客の誘致や従来の主だった資源のPRはなされていると言える。一方、区の隠れた及び新たな魅力を発掘する事業は不十分であり、文の京ならではの資源発掘という観点から、今後新たな事業の実施を検討されたい。
- ・ フィルムコミッション事業や文人銘菓事業等を通じた、新たな観光資源の発掘・活用は評価できる。スタンブラリーなど、区外の方も気軽に参加できるような取り組みがあるのは非常によい。
- ・ 区内最先端医療科学や大規模病院施設を活かしたメディカルツーリズムや、地域と大学間の相互交流の強化等を通じて、「知の拠点」としての区のイメージや、数多く存在する知的資源等のさらなる活用を図ることが望ましい。
- ・ まちあるき等は人気ある観光施策であり、文京区の事業も好ましい企画ではあるが、歴史・文化的な側面を持つ事業が多く、参加者の年齢層が中高年に集中している。今後は、文京観光分野において若者の集客につながるような若者の興味・関心をひく参加型企画が増えることを期待する。

平成25年度評価

- ・ 観光ガイド事業は、分かりやすくコースが設定されている点などを評価する。多言語対応の案内標識の増加も評価できる。
- ・ 区内に大学が多いという特性を活かし、学生の目線で参加型等のまちあるきの企画やガイドの試みを検討されたい。
- ・ 施設へのアクセスの観点から、交通機関の利用状況を調べる等、観光促進の為に基礎データ収集が重要である。区内はもとより、区外からの来訪者の利便性を考慮した対応を検討されたい。
- ・ 実験的に地方都市で文京区を紹介するブースを出店する等して、文京区が、他の地域でどう認識されているかを知ることが重要であり、それらを踏まえて情報発信に生かすことが望ましい。

平成26年度評価

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
分野別の目標	2 まちあるきや交流のための環境づくり

1 現状と課題

① 来訪者を迎え入れるにあたり、安全・安心であること、バリアフリー化したやさしいまちであるとともに、緑や情緒あるまちなみなどの多様な景観の維持や保全が求められています。

② 区内を横断的に移動できる手段やわかりやすい案内の提供などを進めていくことが求められています。

③ 区民と区民、区民と来訪者の交流を促進し、本区の資源や暮らしの魅力をより身近に感じられるような機会づくりが求められますが、その際には観光資源の近くに住む区民の日常生活への配慮も求められています。

④ まちあるきの人気が高いこと、まちあるきが地域を知る手段として有効なことから、テーマを持ったまちあるきや地域活性化のためのイベントなどを新たに創出していくことが求められています。

⑤ 本区に多く立地する大学等と連携し、イベントや学会などの誘致を進めるとともに、参加者・同伴者が本区の魅力を堪能できる仕組みづくりが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

	取組状況結果資料ページ
(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進	25
(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり	25
(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり	26
(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進	26
(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）	27
(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり	27

3 認需対象事業

事業名	事業の概要
文京花の五大まつり等の支援	地域の町会・商店会等で組織する各実行委員会が行う「文京花の五大まつり」（さくら、つつじ、あじさい、菊、梅）及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の宣伝・広告及び実施に要する経費の一部を助成することを通じて、地域の発展と活性化及び観光客の誘致を図ります。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- 文京区は文化資源を区内に多く持つことから、文化的な側面でもとらえた観光施策に重きを置いており、その特色や方向性は評価できる。その一方で、産業振興との結びつきが他の自治体に比して弱い側面がある。
- 2020年の東京オリンピック開催決定を契機に、海外からの団体を誘致する視点として、区内の著名宿泊施設や大学等を活用したMICEについて具体的に取組まれた。
- 区内19大学との新たな連携事業や協力してのPR等、地域と大学の連携を進めていく中で、文京区の魅力の一つである、多くの歴史ある「教育機関」を新たな観光資源としてPRされたい。

平成25年度評価

- 施策が固定化していて、継続しているものは昨年と同じ課題がある。生涯学習の部署に観光があるのは他にはない特徴のひとつであり、部局内の相乗効果を活用した発展に期待する。
- 文京区は産業としての観光への依存度が低く、観光施策において他の自治体より産業・経済面の視点が不十分であるが、連携の強化が必要である。
- オリンピック・パラリンピックを踏まえ、観光と国際交流やスポーツとの関連を視野に入れた仕組みを検討されたい。
- 文京区には医療機関が多いという特徴を活かした、観光と医療を結ぶ外国人旅行者の誘致施策については、区としても研究を継続されたい。

平成26年度評価

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
アカデミー推進 計画における分野	4	観光		
分野別の目標	3	観光まちづくりのための情報発信		

1 現状と課題

- ① 「文京区」のブランド力や知名度を高めるための効果的な情報発信を積極的に展開していくことが求められています。
- ② 来訪目的に応じた情報発信の充実を図るとともに、区民に対する積極的な情報発信が求められています。
- ③ メディアに対する情報発信を積極的に行うなど、テレビや新聞などに多く取り上げられるようにすることが求められています。
- ④ 情報提供サイト（ホームページ）を通じた情報発信の充実、携帯端末など新たな情報通信技術の活用など、情報発信の手段を多様化していくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績

取組状況結果資料ページ

(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化	28
(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進	29
(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR	29
(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進	29

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光リーフレットの作成	区内観光施設及び名所・旧跡等観光資源を紹介する観光リーフレット及び食に関するリーフレットを、文京区観光協会に補助金を交付して作成し、本区の魅力を紹介するとともに、文京区観光インフォメーション、シビックセンター展望ラウンジ、東京都観光情報センター及び花の五大まつり等の会場等で配布し、観光客の誘致を図ります。
フィルムコミッションによる観光振興	ホームページやフェイスブック、ツイッターによる情報提供等により、映画、テレビドラマ、CM等の映像制作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影支援を行うことを通じて、区の情報発信を行います。
観光インフォメーションの運営	まちあるきを行う来訪者に対して、旬の情報を迅速・適切に提供するため、観光インフォメーションを運営します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・どの駅の利用者が多いのか、どのくらいの人数の観光客が区を訪れているか等、観光ビジョン制定後の観光客に関するデータ分析が不十分である点については、今後の課題である。事業参加者のアンケート等に関連付けた各種データの分析を実施し、現状の把握をされたい。
- ・区のホームページ等について、構成が複雑で内容も多岐に渡っている。まず、年度ごとに分析項目を決めるなどして、どのような情報が外部から多く見られているのかを把握することで、今後の観光情報の効果的な発信につなげていく必要がある。
- ・外国人の方にホームページやブログ等を使って観光スポットを紹介してもらったり、留学生にメディアレポーターの体験をしてもらうなど、外部の視点や発想に着目して見ること、及び、区が自ら動くのではなく新たな活力と連携することで、文京区の観光施策の新たな方向、見せ方につながると考える。

参考：平成25年度評価

- ・観光ガイドおさんぼくんが都内で1位になったことを評価する。特定エリアの地図よりも網羅的で、情報が豊富な点が良かったと考える。
- ・区の様々な地図は情報量が多く検索性に課題があるため、ロケ地、飲食など、目的別の表示方式を充実されたい。また、民間施設の情報掲載の拡充や、地図を常に最新の情報に保つ為の地域のネットワークづくりが必要になると考えられる。
- ・オリンピック・パラリンピックに向けて、多言語対応の充実とともに障害者に優しいルートマップなども必要と考えられる。
- ・携帯、タブレット端末に向けた情報発信が今後さらに重要となるが、技術革新や費用対効果等を見極めつつ取組むことが重要である。

平成26年度評価

平成27年度 アカデミー推進計画進行管理表（平成26年度実績）

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目	観光
-----------------------	-----	--------------	-----	----

アカデミー推進 計画における分野	4 観光
分野別の目標	4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

1 現状と課題

- ① 来訪者に対し、区民が本区の魅力をきちんと伝えることができるようにするため、人材の育成や学びの機会づくりが求められています。
- ② 地域で活動する団体・人材の発掘を進めるとともに、区民、商店街、教育機関など区内のさまざまな主体が連携する体制を整えることや、個々の特徴を活かした活躍の場づくりが求められています。
- ③ 区民や事業者、地域活動団体などの観光振興に対する意識を醸成する中で、ホスピタリティを高めることが求められています。
- ④ 区、観光協会、地域活動団体などさまざまな団体が、それぞれ主体的に活動することに加え、組織や地域の枠を超えて協力・連携しながら取り組んでいくことが求められています。

2 基本的な方向・事業実績	取組状況結果資料ページ
(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成	30
(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用	30
(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成	30
(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり	30

3 評価対象事業

事業名	事業の概要
観光ガイド事業の充実	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。
文の京の観光促進タウンガイドミーティング	観光の専門家である学識経験者や、旅行者、観光関係団体等の職員等による会議体を設置し、区内の観光資源の活用と魅力発信、おもてなしの心の醸成と環境整備、観光を通じた地域や産業の活性化の推進、効果的な観光施策のための各主体の連携手法等について議論します。

4 分野別評価

参考：24年度評価

- ・オフィスエリアにおいて在勤者を地域の飲食店に取り込む等、飲食産業と連携した取り組み（フードツーリズム等による食の魅力発信等）をさらに充実させたい。
- ・パンフレット等の配布場所・方法を工夫し、滞在時間の短い訪区者でも手軽に観光情報が入手できるよう検討する必要がある。
- ・観光ガイドの募集が隔年で実施されるため、ガイドの募集のない年度には、PRが停止してしまっている。人員確保の面で、ガイド募集を行わない年であっても事業全体のスケジュールが把握できるようにするなど、ガイド志願者や候補者を多く惹きつけ、取り込めるような案内、PRを研究されたい。
- ・区に関する副読本はあるものの、その他に、区内庭園が作成しているような小学生向けの観光ガイドブックを作成するなど、自区の観光資源や文化的な側面に対する理解と「愛区心」を育むような教育を行うことを検討されたい。

参考：平成25年度評価

- ・伝統的な祭りや商店街のイベント等において、若い世代が共に気軽にできる企画を検討されたい。
- ・事業によって、取り組みに濃淡があり、成果が多い事業がある一方、未着手の事業への懸念がある。
- ・観光によって文京区の街の知名度や好感度を向上させて行くことで、シティセールスにもつながる取り組みの充実を検討されたい。
- ・さらなる事業の推進にあたり、国や都の補助金も積極的に活用するべきである。人員については、必要な体制を整えることで、様々な課題を解決できるのではないか。

平成26年度評価